

第 2 回下水道政策研究委員会 議事要旨

日 時 平成 25 年 11 月 22 日 (金) 15:00～17:00
 場 所 日本下水道協会 大会議室
 出席者 委員長 花木委員(東京大学大学院)
 委 員 井出委員、大久保委員、大屋委員、長村委員、小林委員、小村委員、田中委員、辻本委員、長岡委員、長谷川委員、古米委員、松浦委員、松木委員、谷戸委員
 事務局 (国土交通省) 岡久下水道部長、頼下水道企画課長、増田下水道事業課長、加藤流域管理官、山本下水道管理指導室長、植松下水道事業調整官、白崎流域下水道計画調整官、三宮下水道国際・技術調整官、(国土技術政策総合研究所) 高島下水道研究部長、(日本下水道協会) 曾小川理事長、石川常務理事、佐伯常務理事

□ 議 題：

1. 開会
2. 挨拶 (国土交通省)
3. 委員紹介
4. 議事
 - (1) 第 1 回委員会 委員意見の論点
 - (2) 新下水道ビジョン (仮称) の構成について
 - (3) 新下水道ビジョン (仮称) のイメージ等について
 - (4) 21 世紀社会における新たな下水道の姿と目標について
 - (5) その他
5. 閉会

□ 配付資料：

- 議事次第
 資料 1 第 1 回下水道政策研究委員会での委員意見の論点整理
 資料 2 新下水道ビジョン (仮称) の構成 (案)
 資料 3-1 新下水道ビジョン (仮称) のイメージ (案)
 資料 3-2 新下水道ビジョン (仮称) のねらい (案)
 資料 4-1, 4-2 第 3 章 21 世紀社会における新たな下水道の姿と目標 (案)
 参考資料 1 下水道政策研究委員会名簿
 参考資料 2 第 1 回下水道政策研究委員会 議事要旨

□ 議 題：

1. 開会
2. 挨拶 (国土交通省)
岡久下水道部長より挨拶。
3. 委員紹介

4. 議事

- (1) 第1回委員会 委員意見の論点
- (2) 新下水道ビジョン（仮称）の構成について
- (3) 新下水道ビジョン（仮称）のイメージ等について
- (4) 21世紀社会における新たな下水道の姿と目標について
- (5) その他

事務局) 「資料1 第1回下水道政策研究委員会での委員意見の論点整理」「資料2 新下水道ビジョン（仮称）の構成（案）」「資料3-1 新下水道ビジョン（仮称）のイメージ（案）」「資料3-2 新下水道ビジョン（仮称）のねらい（案）」「資料4-1, 4-2 第3章 21世紀社会における新たな下水道の姿と目標（案）」について説明。

委員長) まずは資料3-2 までに対してのご意見を頂きたい。

委員) ・資料3-1 の図において、緑色の線から出ている茶色の点線というものが何を表しているのか意味がわからない。

⇒茶色の線が下がっているのは、財政制約や人員制約がある中で、何もしなければ、社会への貢献度が下がっていく懸念があることを示している。（事務局）

・資料3-2 で、下水道関係者だけでなく、新たな価値共創の相手となる周辺分野の方々も発信先ではないか。

⇒他分野の人々の意見も伺いながら作成していることも踏まえ、その点も含めて修正していきたい。（事務局）

・資料3-1 の絵の連続的成長（緑色の線）は、循環のみちをしなかったら、緑色の線になるということではなく、下水道のベシク部分を表しているということか。

⇒従来通りの雨水排除や汚水の排除・処理のみの貢献度の中での成長ということである。（事務局）

・民間に本質的な技術についてもっとバリエーションな技術の開発・提供を期待していること発信してもらえるとモチベーションが上がる。

⇒管理・運営という新たな展開に当たって、地球温暖化等々を含めてレベルアップした技術開発の必要性が明確に読めるように記述していきたい。（事務局）

・地方の自治体では人的スキルや技術レベルが下がってきているので、地方でできないことは国と地方が一体連携して実現するという考え方が必要である。

⇒第5回目から事業運営を議論する予定。地方のできないところをどうサポートしていくかを議論したい。サポートの仕方として、市町村同士、都道府県、協会や民間などの役割を考える中で、国の役割についても考えていきたい。（事務局）

・資料3-1 の図において、今まででも水洗化の問題、排除の問題、水質汚濁防止の問題など大きな役割を果たしてきたはずである。その割には、イメージが小さすぎる。

⇒資料3-1 の図は、「循環のみち」以降をクローズアップした絵となっている。今ま

でが芋虫でいいのか、そこは再整理したい。(事務局)

- ・ 「飛躍的進化」に相当するものとして何が出てくるのか。今後、飛躍した後、姿が変わらないので、スパイラルアップしていくというイメージと違う。
⇒飛躍的進歩が何かということやスパイラルアップした後の姿は、「新たな価値共創」とも関連づけて検討していきたい。次回以降の委員会でも説明したい。(事務局)
- ・ 国の役割を明確に発信すべきである。
⇒国の役割については、第3回以降のテーマ毎に、10年間に国が何をやっていくかを提案していきたい。いろいろな意見を聞いた上で、中期ビジョンで示していく。(事務局)
- ・ 下水道の整備状況は、普及率が高い所から低い所まで様々なレベルがある。ビジョンにいろいろなことを書かれても、地方自治体がビジョンに対応できないと事業は進んでいかない。
- ・ ネクサス、サステナブル、レジリエントなどと書かれても概念がピンとせず、メッセージとしては如何なものかと思う。名称は一般的で現実的な表現がよい。
- ・ 飛躍的な下水道のあり方を進めていくときには、指導だけでなく、技術的な支援(リーダーシップ)を含めて、その連携がしっかりとしていないと何も進まない。
⇒今回はあるべき姿、夢を示しているが、具体的な施策について10年間で何をするか、それを実現するための制度や国の支援などについては、次回以降議論していきたい。(事務局)
- ・ 資料3-1の図で、現在はどの位置にいるのかわからない。実際には「循環のみち」はまだまだ進んでいないのに、知らない人を見ると「循環のみち」はかなり進んで、第3ステージに行くというふうに誤解を抱く人もいるのではないかと。
⇒1,000以上の自治体が下水道事業を実施しており、自治体によって現状が異なる。ビジョンについては、各自治体がそれぞれ対応できるように、いろいろな提案をしていきたい。(事務局)

委員長) 資料4も含めてご意見を頂きたい。

委員) ・実際には、下水道事業が各地域で様々なレベルでやっている中で、国が如何に統合的に引っ張っていくかがビジョンの最も大きな課題である。

- ・ 5つの柱は、英語ではあるが、うまくまとめられている。下水道自身が生き残ろうとするのではなく、下水道が国土政策の中で、サステナビリティやレジリエンスに向けて、どのように貢献できるかというスタンスで書くべき。

- ・ サステナビリティのためには、下水道機能及び経営の両面がある。また、機能を発揮するためのオペレーションの統合が必要である。
- ・ ビジョンと中期の目標は、地域のバラツキを認識する必要があり、国がちゃんと努力して初めて全体がオーガナイズできる。国がどの役割をするかはビジョンの最初に示すべきである。
 - ⇒国のリーダーシップについては、他分野との連携や国際展開では不可欠なので、国の方針を出していきたい。（事務局）
 - ⇒今はいろいろな役割が出てきており、社会への貢献度が上がるのは大小ではなく、広がりである。今までの部分は、一番のベーシックな役割であって、将来的にもここだけの役割でやっていく下水道があってもよいと思っている。（事務局）
 - ⇒国のリーダーシップについて、今まで施設についてのみ言ってきたが、今回は、人・モノ・カネの一体管理の中で国の役割を担っていきたい。（事務局）
- ・ 全国いろいろな市町村をあり、状況が違う。このビジョンでみんながやっていけるかという不安がある。
- ・ 国民の大部分は汚水、雨水処理といったベーシックな部分に下水道の価値を見出している。これは大切なことである。
- ・ 下水道がサステナブルとか、レジリエンスをどう担っているかをしっかりと見極めることをまず書かないと、サステナブルな下水道だけを言っているかもしれない。
- ・ 革新的でチャレンジングにまとめられおり、意欲について評価する。言葉の使い方も意欲的である。
- ・ 「飛躍的進化」は、現行ビジョンのときのような発想や考え方の大きな転機ではなく、引き続き「循環のみち」という大きな柱の中で飛躍ではないか。
- ・ 国の役割も国際展開等で大きく変わってきたので、議論してまとめてもらいたい。
- ・ ビジョンの中では最先端の考え方や共通の概念などを書くといいが、下水道事業体の状況に応じてビジョンの活用のしかたを判断してもらえばよい。
- ・ 資料 4-1 P.9「②本邦企業の水メジャー化」の5つ目の「グローバル化・・・」についての主語は下水道ではない。国が水メジャーを創るために何かやるのかというふうに読み取れる。海外で活躍している国内企業の方向性と合っているのかを確認して頂きたい。

- ・ 外資系水メジャーが日本の自治体の公共事業を取りにくるということも想定される。マーケットの中で生き残っていける骨のあるものにしていかないといけない。国外ばかり見ていると足元をすくわれることになるため、表現にも注意して記述してほしい。
- ・ 内容が何となくふわっとしている。きちっとした現状認識やギャップ分析がされているのかということが気になる。フィージビリティの裏付けがないと、言葉が躍っているだけになってしまう。各論に期待したい。
- ・ 資料 4-2 P.8 ナレッジマネジメントの確立とは単に知識データベースを作ることではなく、①、②、④、⑤もできるということである。向こう 5 年、10 年のロードマップを描くという気概が必要である。
- ・ 「平常時と非常時のマネジメント」の非常時とは何を意味しているのか。非常時はリスクの他に事故などきめ細かい議論が必要である。
- ・ まず、ベースとなる「持続可能性の追求」をしっかりと書き込むべき。財政、人材は地方公共団体で大きな問題となっている。次に、水・資源・エネルギー利用への技術開発や新しい価値共創の問題を書き込んでいくといった順番が必要である。
- ・ 持続可能性の追求はいろんな問題を抱えているので、いろんな方向性を示すべき。
- ・ 循環のみちとして、熱の問題や資源の問題があるが、最も大きなものは水である。その水が新たな価値を生み出していくための技術開発に取り組みたい。
- ・ そもそもこのような議論がされるのは、更新のためのお金が足りないという面もある。ヒト・モノ・カネと記載があるが、このうちの「カネ」には下水道利用料金も含まれている。新しい取り組みや施設更新を進めるなかでは、下水道利用料金を上げなければ成り立たない可能性があるといった国民負担があることを書くべきである。つらいことであっても、それをわかりやすく書くべきである。
- ・ 内容がふわっとしてよくわからないのは、この企画書を見て“きっとこうなるだろう”という実感が持ちづらいからである。政策にはワクワクするところがあるとよい。
- ・ 国民の理解を得るためには、“下水道を良くすれば国民の生活がこのように良くなる”といった国民にとっての具体的なメリットが見えることが大切。そうすれば、国民が参加して前に進んでいくビジョンになる。難しいとは思いますが、できれば政策にはワクワクできる側面があるとよいと思う。
- ・ 下水道のためにではなく、社会のためにこういう視点でこういうことが新たにできるようになるということクリアにして出せば、変わった部分がよく見えると思う。
- ・ 水・資源・エネルギーの利活用については、例えば、下水熱利用を下水道が集まって

いる所（処理場）で実施するのは適当ではない。どんなユニットで下水道を新しく進化させるかという概念を入れる必要がある。

- ・ スローガンについてもよくまとまっており、ビジョンは夢を見せるものである。
- ・ 住民と一体になることで発展していくと思う。見える化については時間もかかるが、小学生に理解してもらうことも有益。「住民理解」、「住民とともに」や「住民に信頼される」というスローガンが6番目としてあってもよい。
- ・ 5つのスローガンと3つの柱については、重要なポイントを取り上げていると思う。持続可能な社会に対して、どう下水道が貢献できるのか、すべきなのかということを誤解されないように表現を工夫すればよい。
- ・ ビジョン 2100 が出て、中期ビジョンが出てきたときに、もっと現実的なところをやらなさいといけない状況に対して、短期的に頑張る部分との整合性を持って長期的な視点で頑張るビジョンを書き込む必要がある。
- ・ ビジョンでは数値目標やその達成評価方法もイメージし、下水道の能力や機能評価ができるように、評価指標を早めに用意しておくべきである。
- ・ 浸水対策は、将来的に重要なことなので、ビジョンにも示すべきである。
- ・ 一体マネジメント／一体管理は、用語を統一すべき。
- ・ 5つのスローガンについては、後についている下水道をとり、これらを下水道が担っていく表現にしてはどうか。
- ・ スローガンは挑戦的でよいが、「循環のみち」との違いを表現しようとしており、かえって分かりにくくなっている。
- ・ 前段の長期目標とどうリンクさせるかが課題である。
- ・ 「下水道は」という表現ではなく、「下水道で」という表現がよい。下水道システムをどうする、下水道システムでどうするという両方の表現がある。
- ・ 3つの柱の再構築で、矢印の入れ方にイメージが湧かない。
⇒ (2) と (3) を経ながら (1) の水・資源・エネルギー循環の構築につながらないかということを示している。（事務局）
- ・ ビジョンに書かれた姿と現状とをどのようにつなげていくかは、現状認識が必要であり、地に足を付けた議論が必要である。
- ・ ビジョンとしては明るいものがでていますが、イメージとしては暗い。

- ・ 水・資源・エネルギー循環の構築が最終目的だといわれると、違うのではないかと思う。将来的にはネクサス下水道だけをやるのかということになる。最終的には「循環のみち」に向かうことが目的で、その中で3つの柱があるという言い方が理解しやすかった。
- ・ 発信先に、必要な予算確保や料金体系の問題が出てくるので、議会、政界や経済界も加えるべきである。

委員長) 多くのご意見ありがとうございます。

事務局) 次回、第3回下水道政策研究委員会は平成25年12月17日15時から予定しています。

5. 閉会

以上